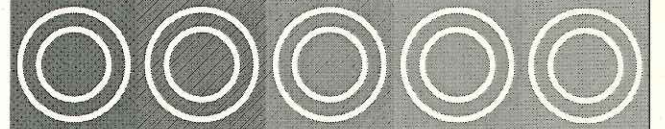


# 創世ホール通信 No.247

催し案内 + 文化ジャーナル  
2015年8月1日発行 ■北島町立図書館・創世ホール  
電話088・698・1100 ◎ファクシミリ088・698・1180  
771-0207 ◎徳島県板野郡北島町新喜来字南古田91◎



## 生きがい講座受講生写真作品展

8月9日(日)～14日(金) 10時～18時

\*最終日は16時半まで 月曜日は休館

会場 ● 2階ギャラリー 入場無料

主催 ● 北島町社会福祉協議会 (☎698・8910)

## きたしまひょうたん阿波おどり

8月14日(金) 11時～13時

会場 ● 3階多目的ホール 無料(要整理券)

主催 ● 北島町商工会

## 北島町平和のつどい 「チロヌップのきつね」

8月22日(土) 2回上映 ①10時～ ②14時～

会場 ● 3階多目的ホール 無料

作品 ● 「チロヌップのきつね」

主催 ● 北島町・北島町平和のつどい実行委員会 (☎088・698・1100)

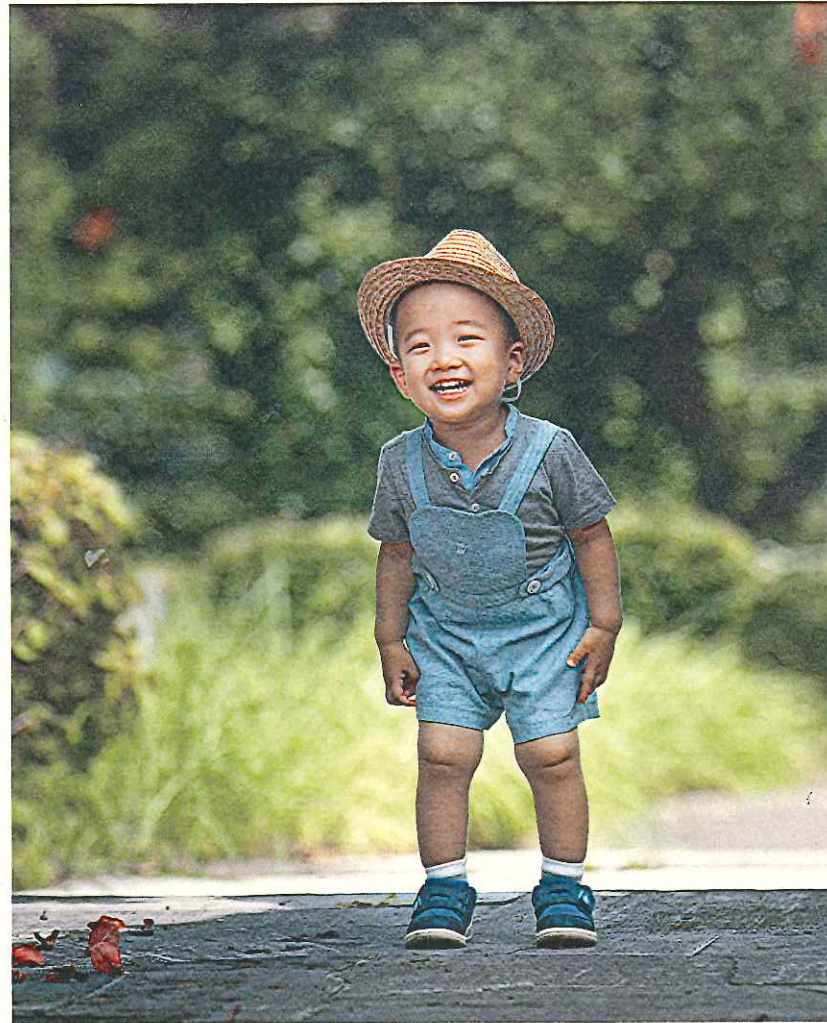
## 江富久雄 ◎ こども写真展

8月28日(金)～30日(日)

10時～18時 最終日は17時迄

会場 ● 2階ギャラリー 無料

主催 ● 江富久雄こども写真展実行委員会 (☎088・698・6888)



## 植物と貝に名前をつける会

8月29日(土) 10時～16時

会場 ● 2階ハイビジョン・シアター 無料

講師 ● 河野圭典先生(貝)、木下 覺先生(植物)

主催 ● 北島町立図書館 (☎698・1100)

■事前に下調べをしてきてくださいね。

## 緊急告知 ● 北島アンダーグラウンド・ナイト

### 遠藤ミチロウ 復活御礼★福島復興祈願 ライヴ

9月12日(土) 19時～

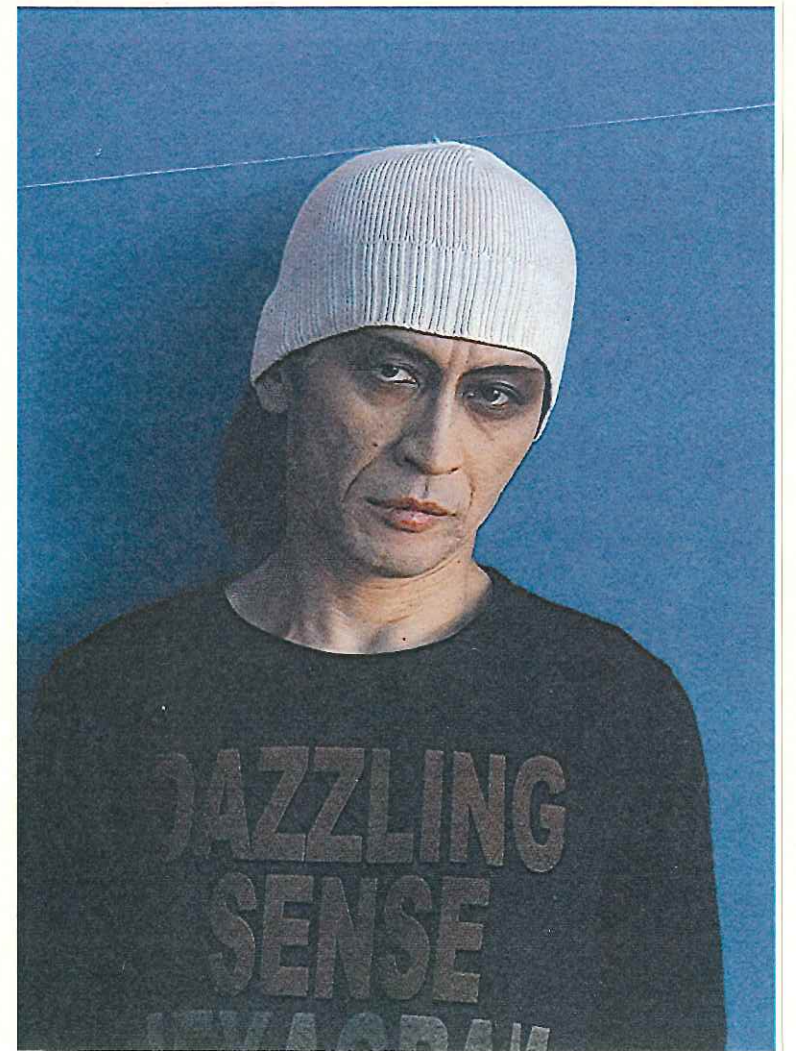
会場 ● 2階ハイビジョン・シアター

入場料 ● 前売/2500円(当日3000円)

出演 ● 遠藤ミチロウ

主催 ● 遠藤ミチロウ★ライヴ実行委員会 (☎088・698・1100)

■創世ホール8回目の登場となるパンク歌手・遠藤ミチロウ(1950年11月15日生) ■福島県二本松市出身の彼は2011年、被災した郷里のために音楽家・大友良英や坂本龍一、詩人の和合亮一等と共にプロジェクトFUKUSHIMAを立ち上げ、同年夏、野外イベント「フェスティバルFUKUSHIMA」を開催。13000人を集め全世界の注目を集めた ■2012年の「フェスティバルFUKUSHIMA」は世界同時多発イベントとして日本国内百か所超の他、海外でも連帯イベントが展開された ■2014年、膠原病発症。入院治療を経て、薬の投与を受けつつライブ活動再開。2015年4月、CD「FUKUSHIMA」、著作『膠原病院』発表。不屈の闘志で甦ったその雄姿は感動を与え続けている。



文部省選定



お母さん、買ひなめしよ

日本P.T.A全国協議会推薦



# 文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

## 遠藤ミチロウと徳島県北島町

### 北島町立図書館・創世ホール公演の足跡

■遠藤ミチロウ氏は、私（小西）の古い知人で、かねて敬愛してやまない偉大な音楽家です。初対面は1981年5月、法政大学学生会館ホールの階段踊り場でした。ミチロウさんの隣には地引雄一さんがいました（この時のことは別のところに書いたので、以下省略）。

■ずっと距離が縮まったのは90年代以降で、私が徳島でのミチロウさんのライブのお世話をさせていただくようになったからでした。当初は、ずっと徳島市内のライブハウスとの日程調整、仲介、広報宣伝、送迎などをしていましたが、2004年からは、いっそ職場でやろう（その方が少しでもギャラを多くお支払いすることができる）ということで、北島町で何度も演奏していただいています。そして、小西自宅に何度もお泊りいただいています。

■昨年2月22日に、徳島市内のお店で遠藤さんのコンサートを開催するようお世話させていただいておりました。前日の21日午前10時過ぎ、たまたま少年少女発明クラブの全国会議のため、私は日帰り出張で上京していました。そこに職場から電話があり「遠藤ミチロウさんのマネージャーの方から緊急で小西さんに連絡がありました。重要な案件とのことでした。大変切迫している様子でしたので、次の番号に至急連絡してあげてください」とのこと、あわててその番号にかけてみたら、遠藤さんが昨夜（2月20日）倒れて緊急入院したこと、症状は心膜炎で手術を受けることになったこと、従って四国ツアーは中止、申し訳ないが事情ご理解をということでした。すぐ、徳島の関係先10カ所ほどに電話をかけ、前売券の販売ストップやら、払い戻し対応、電話問い合わせへの対応文言等の相談をしました。催し当日は、ライブ会場に足を運んで、知らずに来場された方に説明するという対応をさせていただきました。

■その後（確か3月に）遠藤さんは、復活ライブをされたのですが、再び体調を崩されたという情報が伝わってきました。こういう場合は、なかなかこちらからご体調を伺うようなことはできないものです。結果的に何となく、気にかけてながらそのままになって、日々の雑事に追われて時間だけが過ぎさってゆくというナサケナイ日常を送っていました。

■そんな時、2015年6月中旬、久しぶりに遠藤ミチロウさんからお電話をいただきました。9月12日（土）に徳島でライブをやれないだろうか、というご相談でした。ライブ会場をどうするか、PAをどうするか、などなど友人のS野氏やその他複数の人たちの意見を聞き、最終的に9月12日徳島公演を謹んでお受けし、お世話させていただく、場所は北島町立図書館・創世ホール2階ハイビジョン・シアター、PAはうさぎやさんにお世話になるということで方向性を決定しました。すぐチラシとチケットを作成し、チケット納品にも出かけました。

■今回、じっくり過去の催しを調べてみました。その結果、北島町では今年で8回目の公演になることが分かりました。昨年「創世ホール通信／文化ジャーナル」11月号、「創世ホール自主事業20年の足跡特集②」で催しの記録を掲載したことがありますが、その時は

4回分しか載せることができていませんでした。これが完全版です。毎回、企画者（小西）の思い入れを込めたタイトルを付けてきたつもりです。

### 【遠藤ミチロウ氏創世ホール・ライブの足跡】

- 2004年1月18日◎遠藤ミチロウ／北島ライブ
- 2005年1月9日◎遠藤ミチロウ／新春ライブ
- 2006年7月15日◎遠藤ミチロウ／55歳ライブ
- 2007年12月9日◎遠藤ミチロウ／57歳ライブ
- 2009年11月21日◎遠藤ミチロウ／59歳ライブ
- 2012年2月14日◎遠藤ミチロウ／福島復興・ニッポン巡礼ライブin徳島
- 2013年2月9日◎遠藤ミチロウ／フクシマ★トクシマ連帯ライブ
- 2015年9月12日◎遠藤ミチロウ／復活御礼★福島復興祈願ライブ

■遠藤さんのご病気は、膠原（こうげん）病でした。厚生労働省の指定難病です。内臓で炎症が起こる病気で、治療法は副作用のあるステロイドなどの投与ということでした。根本治療ではなく、症状をおさえるのであり、病気と薬とは一生付き合わねばならないこと、また薬も副作用をもたらすものであることなどを遠藤さんは電話でおっしゃっていました。実は、私（小西）も難病指定を受けています。潰瘍性（かいようせい）大腸炎という病気で、ずっと検査と薬の投与を続けています（1990年頃発症）。自分の病気も、生涯、病気と薬と上手に付き合っていくなさいと言われていたので、初期の不安や焦燥や諦観などが複雑に交錯する、混沌とした気持ちを含め、病気との距離感などはよく理解できるつもりです。

■遠藤さんは、今年4月、詩集とオリジナル・アルバムを同時発売しました。詩集は『膠原病院』（2015年4月29日、アイノア、本体1900円＋税）、CDは「FUKUSHIMA」（2015年4月29日、北極バクテリア、本体2500円＋税）というタイトルです。両作ともファン必携の重要作品です。傑作と呼んでよいと思います。

■詩集は重たいものでした。冒頭1編目の詩「あからさま」には「一寸先は闇さ／自分が何者なのか／あからさまになる日が／そのうちやって来る」という、1節があります。この詩集には、遠藤さんが2014年7月1日から同年8月19日までの49泊50日間の入院中に書いた詩が49篇収められています。その内「新・新相馬盆唄」「志田名音頭『ドドスコ』」の2篇は、CD「FUKUSHIMA」にも遠藤さんの歌唱で収められており、どちらも素晴らしい名曲です。遠藤さんは盆踊りや民謡をごく普通に取り入れて、自分のものにしていきます。しかも痛烈な風刺精神を脈打たせながら。

■私は以前から、英国ロック・アーティストがロックの激しい楽曲の中にごく普通に美しいトラディショナル・ソングを織り交ぜる姿を立派だと評価してきましたが、今、遠藤ミチロウはここに、アコースティック・パンク楽曲などが並ぶアルバムで、自国の伝統音楽（ジャパニーズ・トラディショナル音楽＝民謡、盆唄）を違和感なく演奏・収録し、見事に成立させています。

■詩集には8月15日に書かれた「母の誕生日」という作品があります。遠藤氏のおぶくろさんは、8月15日が誕生日で、その母親の足跡を綴ることで戦後日本の断面を描くという離れ業をやっている。これは、文学的にも高い価値と深い味わいのある、一つの到達点といってよいのではないかと思います。これには、まいり

ました。  
■詩集「後書き」には次のように書かれています。「僕は昨年散々な年でした。年明けから体調不良で二月に緊急入院、心臓のカテーテル手術で一命を取り留めたが、その後の復帰活動で再び体調悪化、（略）再び入院。検査の結果、膠原病SLE（全身性エリテマトーデス）と悪性関節リウマチの併発と診断され、その治療に入りました。」「SLEのせいで両足の痺れも発生し、正常歩行が出来なくなってしまったのが、一番辛い。神経細胞が破損したのでなかなか治らないと医者から言われ、その後も治らないと診断された。」この歩行の記述が気になったので、マネージャーの方にお聞きしたところ、演奏活動は椅子に座って行なっているということでした。  
■遠藤さんより5歳年下の私は来年3月30日に60歳になり、翌31日をもって定年退職をいたします。みんな還暦のじいになってゆくわけです。創世ホールの独自路線の企画を応援くださっている全ての皆さん、遠藤ミチロウの活動も、私の企画仕事も、とにかくそれぞれの現場でいよいよカウントダウンが始まったのだとご認識ください。私は企画者として当面9月12日のミチロウさんのライブ、11月1日の北島トラディショナル・ナイトに全力を傾注する所存です。心ある皆さん、お力をお寄せいただけましたら幸いです。  
……………（20150805脱稿、文責＝北島町教育委員会教育次長・小西昌幸）……………

ISBN978-4-98169-188-5  
C0095 ¥1900E  
定価（本体1,900円＋税）  
発行 株式会社アイノア  
1920095019000

膠原病院 KOGEN BYOIN 遠藤ミチロウ

2014年、夏の50日間、入院中毎日書き続けた49篇の詩  
ロククミュージシャン、元ザ・スターリンの  
鼓手ミチロウが、突然、難病に倒れ入院。  
病室に閉じこもる。病室のドドスコメント。  
自然に思いついた、アラビアンナイト風。

そこが病室でも放浪でも、歌い、叫ぶ。  
葛藤しながら揺れるに彼は熱く脈打っている。  
これは、遠藤ミチロウの歌の純粋さで、  
旅のはじまり。 三浦みづ紀（詩人）

自分は何者なのか、あからさまになる日が、  
やっとやって来た —— 遠藤ミチロウ

あからさま、いくつも / 崩壊 / 国道4号線 / サスケエネエ / 廊下 / 言いたいことは / じ  
いはいはたそがれて / OOOO / 放射線の海 / 未だ完結 / 笑ってしまいたい / SLE（全身性エ  
リテマトーデス） / 雨に打たれて / くっせ！ / 真夜中の戦い / 葛城で / 不海の病 / 奇蹟の  
林檎 / 記憶 / 野郎野郎 / 徹夜 / 早く、行くべ！！ / 新相馬盆唄 / 志田名音頭「ドドスコ」  
（ドドスコ音頭） / 巻以外 / 真夜中のカウボーイ / めをまましてころん / スカイワリー 6  
男 / うた / フラハ / 不眠 / 愚歌 / 手紙 / 住み慣れた街 / やり過ぎ / ヒロシマ 2014.8.6  
フクシマ / 日の出 / らいくーん / 長崎原爆の日 / 赤いホテル（3・10 東京大空襲） / 3・11（陸  
前高田松原海岸） / 東京の下町 / 知恵 / コロン・プスの卵 / 母の誕生日 / ハロー！！ 虎！！  
/ 天使のはらわた / 看護婦さん

FUKUSHIMA ENDO MICHIRO

ENDO MICHIRO FUKUSHIMA